



鉄道友の会 選定 2024 年 島秀雄記念優秀著作賞決定

■単行本部門（2件）

- ・藤田吾郎『70系戦災復旧客車 —その形態バリエーション—』（上・中・下）ネコ・パブリッシング（2023）
- ・岡田健太郎『大陸浪人路面電車—中国大陸を駆けた日本の電車のものがたり—』日本鉄道研究団体連合会（2023）

■定期刊行物部門

- ・該当なし

■特別部門（2件）

- ・浅原信彦『ガイドブック 最盛期の国鉄車両』1～16（ネコ・パブリッシング）
- ・芝浦工業大学附属中学高等学校「鉄道院 403 号（西武鉄道 4 号）機関車の保存」（『レイル』125 号、エリエイ）および同機関車の保存活動

鉄道友の会(会長・佐伯洋、会員約 3000 名)は、島秀雄記念優秀著作賞選考委員会（選考委員長・小野田滋）による選考のもと、2024 年島秀雄記念優秀著作賞として、上記の単行本部門 2 件、特別部門 2 件の合計 4 件を選定することに決定いたしました。

賞の趣旨、選定対象の解説、選定理由などについては、別紙をご覧ください。

島秀雄記念優秀著作賞とは

島秀雄記念優秀著作賞は、毎年 1 回、鉄道分野に関する優れた著作物または著作物に関わる功績を選定し、鉄道および鉄道文化の発展に寄与することを目的として、2008 年に設置された賞です（今回が第 17 回目となります）。

賞の名称は、鉄道友の会初代会長であり、国鉄の技術者として東海道新幹線の実現に貢献した島秀雄（1901～1998）に由来するもので、その功績を永久に記念するとともに後進にとっての励みとするため、その名前を冠しています。

2024年 島秀雄記念優秀著作賞選定対象の解説・選定理由

■ 単行本部門（2件）

- ・ 藤田吾郎『70系戦災復旧客車 —その形態バリエーション—』（上・中・下）ネコ・パブリッシング（2023）

70系戦災復旧客車は、太平洋戦争中に被災した車両を応急的に復旧したもので、再改造や劣化による廃車のペースが速く、1980年代に事業用車としてわずかに残るのみでした。戦後の混乱のため被災車鋼体を生かした工場判断による個別的改造も多く、全体像が不明確なため「種々のバリエーションがある」と総括され、1946～1950年に製作された376両の実態は不明瞭のままです。著者はその外観バリエーションを明らかにすることを旨とし、写真や図面などを基に調査を進め、復旧前の車体が残存するケースは58両、車体や台枠を利用して復旧されたケースは315両であることを明らかにしました。この結果、未確認はわずか3両に絞られたとのこと。従前調査による写真や測定データなどに基づき85タイプを図面化していることも特筆されます。現車がほぼ消滅した現在、散逸が進む古い資料・記録を博捜してその実態を明らかにした類例のない書籍であり、鉄道趣味界への貢献が極めて大きいと考えられ、受賞作に選定しました。

- ・ 岡田健太郎『大陸浪人路面電車—中国大陸を駆けた日本の電車のものがたり—』日本鉄道研究団体連合会（2023）

本書は、これまで内地の公営・民営電気軌道各社から転出の記録が見られながらも、中国大陸に渡って以後の足取りが明確になっていなかった車両を、さまざまな記録、写真、さらには現地調査などによって丁寧に復原した記録集です。また画像が残っていない車両については、最新のデジタル技術を駆使して各種資料をもとにその実像を復元しています。これまで直接関係する日中両国はもちろん、世界的にもほとんど手つかずの領域に切り込んだ著者の着眼点および着想、さらに資料収集のみならず実見者の知見や写真も交えながら考証を深めている点も評価できるでしょう。また将来得られなくなるであろう知見を整理した点も評価できます。現代の鉄道趣味者にとってだけでなく、将来にわたる貴重な記録として、受賞作に選定しました。

■ 定期刊行物部門

- ・ 該当なし

定期刊行物部門については、応募作の中から島賞にふさわしい作品を選出するには至らなかったため、今回は「該当なし」といたしました。「該当なし」とすることの妥当性については選考委員会で相当に議論を重ねましたが、やむを得ないとの結論に至りました。

■特別部門（2件）

・浅原信彦『ガイドブック 最盛期の国鉄車輛』1～16（ネコ・パブリッシング）

1968年前後に国鉄に在籍した電車、電気機関車、蒸気機関車を網羅的に解説した本誌は、国鉄時代を知る者だけでなくこれからの世代の趣味者にとっても、当時の車両の全容を知るうえでよい手引書と言えます。電車や電気機関車については昭和初期から高度成長期の輸送力増強に到るまでに導入された車両技術や車両の使用状況を体系的に取り纏めており、いっぽうで蒸気機関車では地域の事情に合わせた仕様の変更や改造など趣味的な視点も織り交ぜた構成が目を引きまします。著者が17年をかけて纏め上げた16巻という壮大な取組みは類を見ないもので、特別賞に値するものとして選定しました。

・芝浦工業大学附属中学高等学校「鉄道院403号(西武鉄道4号)機関車の保存」(『レイル』125号、エリエイ) および同機関車の保存活動

1922年に設立された東京鉄道中学がルーツである芝浦工業大学附属中学高等学校は、開校100周年記念事業のひとつとして、英国ナスミス・ウィルソン社製の鉄道院400形蒸気機関車403号機の保存展示を2022年に開始しました。この機関車は晩年に西武鉄道4号機となり、上武鉄道への貸出期間を経てユネスコ村で静態展示された後、西武鉄道横瀬車両基地にて保管されていたもので、復元整備され同校に寄贈されたものです。『レイル』誌に掲載された記事は、1886年に製造された同機の歴史を詳しく解説するとともに、復元工事中に撮影された各部の詳細な写真を掲載しており、その高い資料性は今後の鉄道車両保存活動にも益するところが大きいといえ、機関車の保存活動とともに特別賞に相応しいものとして選定しました。

島秀雄記念優秀著作賞の詳細

島秀雄記念優秀著作賞の部門は、以下の通りです。

- 1) 単行本部門…… 書籍の中から優秀な作品を選定します
- 2) 定期刊行物部門……定期刊行物に掲載された著作物の中から優秀な作品を選定します。
- 3) 特別部門…… 単行本や定期刊行物以外の著作物で選考委員会が特に認めるもの、または著作物の企画、複製、展示、頒布、その他著作物に関わる功績を選定します。

授賞対象作品の候補は、過去3年間(今年は2021年1月1日から2023年12月31日まで)に発行された著作物(日付は、単行本、定期刊行物とも当該著作物に記載された年月日を基準)を対象としました。なお、著作者は、鉄道友の会会員に限りません。

選考にあたっては、鉄道友の会に島秀雄記念優秀著作賞選考委員会を組織しています。本年度の委員会は、鉄道関係の著作物に精通した鉄道友の会会員10名(委員長・小野田滋)で構成しました。2024年1月より4月30日まで候補作品の推薦を受け付け、単行本部門

23 作品、定期刊行物部門 12 作品が選考対象となりました。

これらのなかから単行本部門について授賞対象を選出するとともに、選考対象作品のなかから特別部門にふさわしい業績を選出しました。

過去 3 年の受賞作品

第 14 回（2021 年）選定

- 単行本部門（2 件）
 - ・ 藤原義弘『三池炭鉱専用鉄道の略歴と機関車』みらい広告出版（2020）
 - ・ 西脇 恵、泉 竜太郎『よみがえる記憶・北陸の鉄道』中日新聞社（2020）
- 定期刊行物部門（1 件）
 - ・ 小野田 滋、加藤幸弘、遠藤晃一、大菅直「京都市交通局 2 号電車について」（エリエイ『レイル』No.116 掲載）
- 特別部門（2 件）
 - ・ 佐藤良介『京急 230 形』（ネコ・パブリッシング）ほか一連の著作に対して
 - ・ 椎橋俊之『鉄の馬と兵ども』（イカロス出版）ほか一連の著作に対して

第 15 回（2022 年）選定

- 単行本部門（3 件）
 - ・ 関田克孝『帝都電鉄』、ネコ・パブリッシング（2019）
 - ・ 青森恒憲（著）・モデルワーゲン（編）『立山砂防軌道』こー企画（2021）
 - ・ 今井啓輔『北海道の殖民軌道』レイルロード（2021）
- 定期刊行物部門（3 件）
 - ・ 服部朗宏「私鉄のキハ 17 系概観」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No. 980～No. 981（2020. 12～2021. 1）
 - ・ 市原純編「証言・DD51 成田空港ジェット燃料輸送」『J-train』イカロス出版、No. 81（2021. 4）
 - ・ 早川淳一「”トレインスポッター”の目で記録した北海道の鉄道 1981～2021」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No. 988（2021. 8）
- 特別部門（1 件）
 - ・ 『ホジ 6014 号蒸気動車のすべて』リニア・鉄道館（2021）の出版および関連する企画に対して

第 16 回（2023 年）選定

- 単行本部門（3 件）
 - ・ 坂中真之『小坂森林鉄道』（上・下）ブイツーソリューション（2019・2020）
 - ・ 稲葉克彦『京成／新京成 100・126 形』（上・下）ネコ・パブリッシング（2022）
 - ・ 中田安治『写真集 叡山電車 100 年のあゆみ』成山堂書店（2022）
- 定期刊行物部門（1 件）
 - ・ 阿部貴幸「遊泉寺銅山専用鉄道とその車輛に関して」『鉄道史料』173 号、鉄道史資料保存会（2022. 7）
- 特別部門（2 件）
 - ・ 京都市文化財保護課『こんにちは京都市電―「京都市電関係資料」をひもとく』（京都市文化財ボックス第 35 集）（2022）の刊行および関連企画
 - ・ 鉄道博物館『鉄道の作った日本の旅 150 年』（2022）の刊行および関連企画

「鉄道友の会」のご紹介

「鉄道友の会」は、鉄道ファンが組織する全国規模の趣味団体です。1953（昭和28）年11月14日、「広く鉄道知識を普及し、鉄道趣味を通じて会員相互間の親睦を深め、併せて鉄道を愛護し、その進歩発展に寄与する」ことを目的として創立されましたが、以来70年が経過し、現在は正会員約3000名、賛助会員78団体を数え、全国に7研究会・18支部が設置されています。本会の概要は以下の通りです（2024年10月末現在）。

1. 本部役員

会長 佐伯 洋

副会長1名、専務理事1名、理事15名、監事2名

【歴代会長】	1953年～	島 秀雄	（元国鉄技師長）
	1956年～	天坊 裕彦	（元国鉄副総裁）
	1963年～	島 秀雄	（元国鉄技師長）
	1970年～	天坊 裕彦	（元国鉄副総裁）
	1981年～	八十島義之助	（元東大教授、元J R総研会長）
	1998年～	馬渡 一真	（元国鉄副総裁）
	2007年～	須田 寛	（元国鉄常務理事、元J R東海会長）
	2022年～	佐伯 洋	（元鉄道車輛工業会専務理事）

2. 研究会・支部

- ・研究会（7） 客車気動車、貨車、無線、車両記録、東急電車、小田急、西鉄
- ・支部（18） 北海道、青森、秋田、山形、北関東、新潟、東京、静岡、長野、名古屋、北陸、福井、京都、阪神、東中国、中国、四国、九州

3. 会員数（2024年3月末日現在）

- ・個人会員 2,888名（入会資格：中学生以上ならば、どなたでも入会できます。）
- ・賛助会員 78団体（鉄道事業者、鉄道関連製造会社、出版社など）

4. 主要活動

・ブルーリボン賞・ローレル賞の選定

1958（昭和33）年以来、優秀と認めた新形式の鉄道車両を年1回選定しています。

・島秀雄記念優秀著作賞の選定

鉄道分野に関する優れた著作物または著作物に関わる功績を、年1回選定しています。2008（平成20）年に新設しました。

・鉄道車両の文化財指定支援

文部科学省が進める鉄道車両の文化財指定について、積極的支援活動をしています。

・機関誌「RAILFAN」の発行（隔月・偶数月発行）

1954（昭和29）年創刊の会報誌で、2024年10月発行号で通巻807号を数えています。会員からの投稿を中心に、商業趣味誌では扱われにくい貴重な内容の記事も掲載しています。また、別冊「車両研究」、「保存車・廃車体一覧」の内容は、趣味界において高く評価されています。

・見学会、撮影会、試乗会、講演会などの随時開催

賛助会員をはじめとする各鉄道会社等のご協力により、車両・施設などの見学会、撮影会、新型車両の試乗会のほか、講演会、鉄道模型運転会など、各種行事を随時開催しています。

〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目5番12号 ABEビル9階

鉄 道 友 の 会（本部事務局）

（月～金：10～13・14～17時、土日祝：休）

Te1. & Fax. 03-5215-0305 URL <https://www.jrc.gr.jp/>